

大野城市社会福祉協議会法人化50周年をむかえて



社会福祉法人 大野城市社会福祉協議会
会長 鳥居 正敏

大野城市社会福祉協議会は令和4年10月4日に50歳の誕生日を迎えます。

この50年間の中にはいろいろな苦労があったこととは思いますが、たくさんの先達のご努力により今日の大野城市社会福祉協議会は育まれてきました。ありがとうございます。

50周年を迎えて思うことは、「感謝」の一言に尽きるところです。

そこで50周年を記念して「感謝 ～つながり よりそう これからも～」というフレーズを選びました。

社会福祉協議会の担うべきは「困った人を助ける人を助ける・育てる・励ます、そして感謝すること」を大切なことと考え、まずは広い意味でのボランティアの皆さまに感謝をすることからはじめることを50周年の年度の大きな柱に据えて進みます。

社会福祉協議会の事業費は、主に区長さんをはじめ市民の方々に応援をいただいている赤い羽根共同募金、社協会員会費、一般寄附の3つの浄財(概ね3000万円)で賄われています。この浄財を各地域へまた福祉の当事者団体やボランティア団体へ配分し、あわせて社協の“福祉のまちづくり”のための独自事業に充てています

この三つの財源の確保は、社会福祉協議会の役割を果たすうえで大変重要な財源です。どういふうにこの浄財が使われ、皆さんの役に立っているのかをお伝えしながらその財源の拡大に取り組めます。

大野城市の高齢化率は人口比25%(4人に1人は65歳以上の高齢者)に令和12年に達すると推計しています。このことからいろいろな社会変化が生じています。

社会福祉協議会は地域社会との強い関わりを持っています。各区の区長さん、民生委員・児童委員さん、福祉委員さん、コミュニティ福祉部会の皆さんをはじめ地域の福祉にかかわられている方々のご協力なくして地域福祉は成り立ちません。

ワンチーム

大野城市が目指す「One Team」に心をあわせ、お互い助けられ助ける「向こう三軒両隣」の精神でやさしい地域社会、あたたかい地域社会、すこやかな地域社会を我が社協は目指します。本年50年を経て、次の50年に向けて新たな理念と目標を定め、大野城市社会福祉協議会が役割を果たし地道ですが前へ前へ進んでいくことを祈念して結びとします。

祝 辞



大野城市長 井本 宗司

大野城市社会福祉協議会が社会福祉法人として設立され、50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

このことは、現在の鳥居正敏会長はじめ歴代会長の皆様や理事、評議員、そして職員の方々が、地域福祉の推進に努力を積み重ねられ、地域住民の生活の安定のためにご尽力いただいた賜物であり、ここに改めて深甚なる敬意を表します。

大野城市も今年で市制50周年を迎え、大野城市社会福祉協議会のご協力を得ながら、福祉行政を推進してまいりました。この50年の間に社会情勢は目まぐるしく変化し、地域住民が抱える福祉ニーズは、少子高齢化や地域社会の希薄化などを背景に多様化・複雑化し、地域福祉を巡る状況も大きく変化しています。

このような中、大野城市と大野城市社会福祉協議会は、「地域福祉活動における市民活動推進計画」を共同で策定し、ボランティア、福祉団体、社会福祉関係者の方々と連携しながら、地域福祉の更なる充実を図っているところです。

令和2年の年明けから、我が国においても新型コロナウイルス感染症による社会的混乱が続き、地域福祉活動を円滑に進めていくことが困難な状況にあります。日本中が新しい生活様式を模索している今、我々には地域福祉の新しい在り方を見出していくという大きな挑戦が求め

られています。大野城市と大野城市社会福祉協議会とが連携し「One Team」となって、この大きな壁に立ち向かい、乗り越えていきましょう。

結びに、法人設立50周年を迎えられた大野城市社会福祉協議会のこれまでの実績を称えるとともに、大野城市における地域福祉の推進を担う中核機関として、今後さらに充実・発展されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とします。

祝 辞



大野城市議会 議長 山 上 高 昭

この度、大野城市社会福祉協議会が法人設立 50 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

平素より社会福祉協議会の運営、また地域住民の生活の安定のためにご尽力いただいております鳥居会長をはじめ、歴代の役員の皆様、理事、評議員、そして職員の皆様方に深く敬意を表します。

この 50 年間に、社会情勢や福祉を取り巻く環境は変化し、それに応じて様々な形の支援が求められるようになりました。また近年では新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちは誰もが経験をしたことのない生活を余儀なくされ、社会福祉活動も多くの影響を受けました。このような困難な局面において、人と人の繋がりや支え合いの大切さが改めて重要視されております。

昨年度、大野城市社会福祉協議会と市において共同で策定された「大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画」には、「多彩な人材が地域で活躍 支え手と受け手を超えて～ともに生きる地域社会の構築～」という基本理念が定められております。本市に住む人々が支え合い、地域の繋がりを深め、誰もが住みやすく安心して暮らせるまちを目指し、この計画のもと今後の大野城市の地域福祉がより一層充実したものとなることを期待申し上げます。

市議会としましても現在の社会情勢を見据え、引き続き市民生活の充実と地域福祉向上のために努力をする所存であります。

結びに、法人設立 50 周年という大きな節目を迎えられました大野城市社会福祉協議会のさらなる飛躍と、皆様方のご活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



大野城市教育委員会 教育長 伊藤 啓二

大野城市社会福祉協議会の皆様、法人化 50 周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、大野城市教育委員会と大野城市社会福祉協議会は、学校教育活動において長年、連携をとっており、様々なご支援をいただきながら事業を進めているところです。

まず、おおのじょう福祉教育研修会では、市内の小中学校の教職員と地域の福祉関係者の皆様がともに学び、学校と地域の一体的な福祉意識の向上と、子どもたちの主体的な学びにつなげていくための教職員の意識付けなどにご協力いただいております。

また、小学校では3・4年生を対象に、福祉教育教材「ともに生きる」を配布し、子どもたちが社会福祉についてより身近に感じ、考え、自ら興味を持って学んでいける環境を整えていただいております。

現在のコロナ禍では、残念ながら Web 開催となっておりますが、職員の皆様やボランティアの方々、障がいのある当事者の方々の協力のもと、実感を伴った学習が出来るよう、体験活動にもご尽力を頂いております。

大野城市教育委員会では現在、インクルーシブ教育システムの構築に取り組んでおり、子どもたちや保護者の要望や状況に応じた就学指導を行っています。その観点からも、これから様々な場面で福祉と教育が連携しながらより良いまちづくりを進めていく必要があります、今後も、ご協力を賜りたいと思います。

最後に、この 50 年もの永きに渡り社会福祉にご尽力してこられました関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、今後のますますのご発展を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

大野城市社会福祉協議会法人化 50 周年によせて

「感謝」～つながり よりそう これからも～



大野城市区長会 会長 丸山 利男

大野城市社会福祉協議会(以下「社協」と略す。)の法人化 50 周年を心からお祝い申し上げます。歴代会長はじめ関係の方々並びに会員になっておられる市民(区民)の方々に深く感謝致します。社会福祉の理念「人間の尊厳」と「人と社会を支える」という取組に日々邁進されておられる職員の方々にも敬意を表します。ふくしんぼ VOL189 には鳥居会長以下職員皆さんの集合写真が掲載され、「感謝」とこれからの決意のような一面も表われていて、私にやる気や勇気を抱かせるものでした。福祉を取り巻く環境はこれまでの 50 年より、これから先の 10 年 20 年先がとても厳しい時代を迎えようとしています。団塊の世代がすべて 75 歳以上となる 2025 年問題、8050、老老介護、介護不足、ヤングケアラー、災害時の要支援者のサポート、高齢者への対応は待ったなしの切実なものです。大野城市では高齢者が在宅で安心して暮らしていただけるために、地域での見守り活動や支援活動を推進することを目的として、地域ケア会議設置要綱が平成 19 年 6 月に施行されました。各区においては区長が会長役で見守り活動の進捗、把握に努めていますが、残念ながら見守る側のマンパワーが不足している状況です。福祉に関わらず、公民館活動での人材不足も深刻さを増しています。社協と区長会では定期的に会議を設け地域課題の抽出や新たなニーズの発掘を行い、課題解決や新たな取り組みの検討など取り組んでいます。一例として、社協では最近、SNSを通じた情報発信などを積極的に展開し始めました。各区の福祉活動の取組なども発信されています。若い方にも LINE などで情報を届け、さらには人材発掘にもつなげようとの目論見で、大いに歓迎しています。社協と区長会とは車の両輪に例えられます。今後も社協会員の増大を促進し、社協職員がアイデアを出し合い、果敢にチャレンジできる体制に区長会としても奮闘努力をしていきたいと願っています。福祉はもはや限定された一部の人たちだけのものではなく、全ての人々に関わってくるものと思われれます。

結びに、2019 年 11 月ローマ教皇フランシスコが来日した際、「青年との集い」の中で、他者との関係を深めるために「とても大切なのにあまり評価されていない資質それは他者の為に時間を割き、耳を傾け、共感し、理解するという能力です。」と述べられました。

今後の励みとさせていただければ幸いです。